

KNIFE

February 2012 No.152

PUBLISHER: Kesaharu Imai
EDITOR IN CHIEF: Yasuhito Sakurai
SENIOR EDITOR: Natsuo Hattori
STAFF PHOTOGRAPHER: Naganori Tsutsumi / Yoshihisa Kumagai /
Yasuji Yushina / Tomoaki Tsuruda / Takenori Aoki / Masakuni Miyasaka
COVER DESIGN: Kyosuke Suda (Mabuchi Design Office)
DESIGN: Mabuchi Design Office / Project Q / WPP Design Section
Correspondent, Washington, D.C. Bureau (Pictorial Press International) :
Norman T. Hatch / Mikako Burks

©WORLD PHOTO PRESS 2012

私たちはナイフへの理解を深め、正しい使い方
を提案し、事件・事故の防止を推進します。

東日本大震災の被災地、被災者の皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。
株式会社ワールドフォトプレス



CONTENTS

5 New Discovery! 特別編

JKGナイフコンテスト

12

Tom Hutton

「真のコレクター」トム・ハットン

20

アラスカ流 ビッグゲーム・ハンティング

50

第32回 JKGナイフショー

74

道中俊明

80

日本鍛冶紀行【南アルプス市・鍛冶工房上田】

86

AKI(Art Knife Invitational 2011) アートナイフ・インヴィテーショナル・ショウ

90

マタギの里を訪ねて・復活編 【新連載】野に生きる

35 鍛冶屋フィールドワーク ●かつきせつこ 60 ナイフ・メンテナンス ●坪正史

37 実践的道具考 ●星野欣也 64 USナイフ事情 ●ヒロツガ

38 大工道具のかたち ●土田昇/秋山実 66 アメリカ文化とナイフ ●菊月俊之

42 やっぱり鉄は旨い! ●菊池仁志 68 ハンターとハンティングナイフ ●中條高明

44 TAKE FIVE! 特別編 ●大東正巳 70 ハンティング・パーフェクション ●中條高明

56 ニュープロダクツ 73 読者プレゼント

58 インフォメーション 96 バックナンバー

●表紙撮影/長谷川朋之 ●表紙デザイン/須田恭介(マブチデザインオフィス)
●撮影作品/渡辺隆之作「シースナイフ」 Takayuki WATANABE "Fixed Blade"

*文中の価格は全て消費税込みの総額表記です。





ふくよかなハンドル。

星山文隆「オリエンタルハンター」
Fumitaka Hoshiyama "Oriental Hunter"

●奨励賞

全長220mm、ブレイド長109mm、ブレイド材V金10号ダマスカス、ハンドル材真竹積層&ジュラルミン、ヒルト材ニッケルシルバー。

不思議な質感のハンドル。レザーワッシャかと思いきや、なんと真竹を積層したオリジナル素材。オーソドックスなスタイルながら、チャレンジある1本。



ホルスターのイングレイブは自身によるもの。積層材の鋼材で魅力が出ている。

藤田守「春の宴 デスクナイフ」
Mamoru Fujita "Haru no Utage"

●デザイン・アイデア賞

全長130mm、ブレイド58mm、ブレイド材クロモ7、ハンドル材シーボーン&メキシコ貝、ヒルト/ホルスター材ニッケルシルバー。

藤田氏は各部の形状や素材に和風テイストを盛り込んだ作品を製作。ナイフだけでなくシースにも趣向を凝らした作品が多い。本作はペンとセットのデスクナイフ。ハンドル材を磨き込み、内部の透かし彫りが見える。ナイフを手にするると内部の瓢箪パーツが動くのが見える。新たな要素を提案。ファイルワークなど細部の仕上げが今後期待される意欲作。



JKGナイフコンテスト

日本を代表する老舗ナイフシヨウ、それが「JKGナイフシヨウ」だ。
日本のカスタムナイフメイカーが一堂に会するシヨウだけに、作品を見ながら、普段なかなか会えない各地のメイカーと直に会話できる貴重な場である。とくにここ数年、会場には開場時から終了まで熱心に巡る人が多くなり、新たな盛り上がりを見せている。集まるメイカーの個性もバラエティ豊かになり、より楽しくなっている。
JKGナイフシヨウに並行して毎行なわれるイベントが、JKG ナイフコンテストだ。このコンテスト、出展しているJKGメンバーだけでなく、広く一般からの公募作品も交えて開催されるもの。実力あるJKGメンバーの力作はもちろんだが、荒

削りながら新たな感性を発見するよろこびがある。コンテストといっても、他人と競争するだけの場ではない。
手をかけるほどに作品は磨かれ良くなっていくが、ただ時間をかければよいというものでもない。技があれば同じ仕上げでも圧倒的に早くできるからだ。経験が多いほど技が高まり、表現方法が豊富でより個性的な作品造りが可能になる。しかし、同時に下手に経験があるがため、ナイフの枠に捕らわれすぎて無難な作品になってしまうことがある。逆に経験が浅い分とんでもないチャレンジ作があったりもする。
ナイフとしてオーソドックスな部分を満たしていなければ、ナイフとして物足りない。ナイフはオブジェではない。実用性を失なってはナイフとして成立しないし、形状などのデザインや美しい仕上げまで含め、



井原行生「不動」
Yukio Ihara "Fudo"

●優秀シースナイフ賞

全長207mm、ブレイド長92mm、ブレイド材VG10ダマスカス（佐治武士鍛造）、ハンドル材スタッグ、バットキャップ材ステンレス。

「心身ともに震災に「負けまい!」と、モデルに「不動」と命名しました」という福島県在住の井原氏。スタッグハンドルを貫くコンシールドタンク構造で、滑らかなヒルト形状と安定感ある全体のまとめ方のうまさほまさに「不動」の実力。オーソドックスなスタイルを高い完成度でまとめる、高度な技術とセンスの良さを感じさせる作品だ。



それぞれのブレイドが斜めに削られ、2本収納できる。おもにヤスリと砥石で製作しているそうだ。

Tom Hutton

トム・ハットン



Michael Walker
"Folders"

マイケル・ウォーカー作
「フォールダー三種」
ロックシステムの違う、3種のウォーカーフォールダー。上から、ライナーロック、ブレイドロック、ボタンロック。

ややもすると投資目的とされるほど高額の世界。それだけナイフコレクションが成熟を迎えている証明ともなるが、どこか、本来のコレクションから離れ「気持ち」の込められない売買も増えたように感じる。そんな風潮の中、自らのコレクションを大切に保管し続ける「真のコレクター」として大きな存在感をもつ人物に会ってきた。

コレクター

モノを蒐集する。これは人類だけが持つ、いわば「悩ましきキアラクター」である。心理学では、こうした人間の性癖を「狩猟本能」に基づく性質として説明される向きもあるようだが、いかなるものであろうか。人によると、コレクションの定義は以下のようである。1..そのモノの集合、特別な庇護のもとに置かれていること。2..その品物が、営利目的の流通の外に保たれていること。まあそんなに堅苦しく考えなくてもいいと思うが、あの幻のラブレナイフが25万ドルで売れたり、マイケル・ウォーカーの「ジッパー」が7万ドル以上で落札されるのを見ると、感慨深いモノがあるのは確かだ。そこで今回は、最近出会った「真のコレクター」トム・ハットンを紹介したい。彼がナイフコレクションを始めたのは、

今から30年以上も前、1979年のことだった。

「もともとモノを集めるのは好きでね。それまではアンティークのセイフティレザ（安全カミソリ）を蒐集していたんだ。ところが、1979年の夏だったかな、たまたまブレイドマガジンを開く機会があったね。一遍でハマってしまった。

はじめはブーツナイフが好きになった。一番ナイフらしい形をしていると思ったからね。早速マガジンに出ていたトミー・リーにオーダーを入れた。ところが数ヶ月で出来るといわれていたのに、待てど暮らせど連絡がないんだ。これはえらいことに首を突っ込んだと思ったよ。

それ以来、ナイフメイカーが来るようなガンシヨウを軒並みはしごするようになった。それで結構な数のナイフメイカーや、コレクターとも顔を合わせるようになった。それにつれて手に入るナイフの対象も広がっていった。完成度の高い、スタッグハンドルのハンターが気に入ってね。初めてポップ・ラブラ

スのドロップハンターを買ったのもその頃だよ。

私のコレクションがターニングポイント（転機）を迎えたのは、コレクター仲間から誘われて、84年にネヴァダ州リノで行なわれた「アートナイフ・インヴェンション」に参加した時のことだ。このシヨウには圧倒されたよ。探していたものに出会ったと



Victoria & Tom Hutton

ヴィクトリア&トム・ハットン

1979年からナイフコレクティングを始めたという、筋金入りのコレクターが、ヴィクトリア&トム・ハットンである。「80年代という、ハンドメイドナイフが丁度認知され始めた頃なんだ。いい時代に、コレクションを始めることができたと思っている」今年のAKIショウでは、あの競争率最高のマイケル・ウォーカーのフォールダーの購入権を獲得した、ラッキーなコレクターのひとりともなった。

James Schmidt
"Caron"

ジェームス・シュミット作
「キャロン」

ハンドル長5 1/2インチ、ブレイド長3 3/4インチ、1984年作。シリアルナンバー#61。



James Schmidt
"Sea Flyer"

ジェームス・シュミット作
「シーフライヤー」

ハンドル長5 3/8インチ、ブレイド長3 3/4インチ、1985年作。シリアルナンバー#71。